

消費者教育研究校報告書

愛知県立瀬戸北総合高等学校 田邊 充司

1 はじめに

本校は1984年に普通科高校として開校し、2009年に総合学科へ改編、2011年に現校名へ変更された。多様な進路に対応するため、人文探究・自然探究・健康科学・福祉理解・生活科学・メディア芸術・ビジネスの7系列を設置し、個性を伸ばす学習環境を整えている。校訓「より高く より美しく たくましく」のもと、総合的な探究の時間では1年間かけて探究した成果を全ての生徒が論文にまとめ、発表を行う活動をしている。また、ボランティア活動や各関係施設においての実習など、地域と連携した教育活動を行っている。近年では、アントレプレナーシップ教育を少しずつ取り入れ、失敗を恐れずに、課題を解決する方法を地域とともに探っていく活動も行っており、勉強が苦手な生徒に対しても多方面からアプローチをかける教育を行っている。

本校は四年制大学・短大・専門学校・就職など多様な進路に対応し、7割の生徒が大学・短大・専門学校への進学を、残りの3割の生徒が就職を決めている。推薦選抜や総合型選抜の活用も多く、幅広い進路実現を支えている。しかし、小中学校での学習内容につまずき、自己肯定感が高められず、学習面に対する苦手意識をもつ生徒が多い。そのため、抽象度の高い説明は思考する時間を多く要し、自分事として捉えられる課題を提示した授業を展開することが生徒を主体的に学習に取り組む姿勢へと導く鍵となる。

消費者教育においては、消費者トラブルや「てまえどり」などのエシカル消費の実施などの普段の生活の中にある事例を用いながら思考できる良い機会を設けられると考えた。本研究においては、生徒が主体性をもって消費者問題を考えるために、課題解決型の学習を念頭に置きながら授業の計画を行った。問いや仮説を授業内で立て、よりよいエシカル消費はどのようにして作り出せるのかを考察する授業を実践し、研究に取り組むこととした。

2 ねらい

- (1) 契約のあり方や消費者の権利について理解する（知識・技能）
- (2) 消費者トラブルの記事やエシカル消費についての事例を読み取り、消費者問題についての課題点を考察する（思考・判断・表現）
- (3) 消費者が持つべき責任や社会的課題の解決を考慮できることについて考察し、自ら課題を追求しようとしている（主体的に学習に取り組む態度）

3 実践内容

(1) 単元の指導計画について

対象科目：公共（2単位）

単元名：法的な主体となる私たち 契約と消費者の権利・責任

対象生徒：第2学年 生活科学系列、福祉理解系列、ビジネス系列の35名の生徒

(2) 授業の単元計画

時数	学習内容
1時限目	契約の成立の要件や契約自由の原則について理解する
2時限目	消費者トラブルから情報の非対称性や逆選択について、消費行動の原則を考察する
3時限目	身近な商品からフェアトレードを知り、エシカル消費の課題を理解する
4時限目	エシカル消費を促進する方法について問いを基に追求する
5時限目	エシカル消費について自分で調べ、課題を解決する仮説を立てる

この報告は、上記の計画の3時限目から5時限目までの授業について綴ったものである。以下に3時限目と4・5時限目の授業実践について具体的に述べていく。

(3) 実践内容

①課題提起

3時限目は、環境カウンセラー消費生活アドバイザーの浅野智恵美先生に講師として授業実践をしてもらった。内容としては、「エシカル消費について知ろう・考えようーチョコレートを題材に」という題名で1時間の講義を行った。題材はチョコレートという身近な商品をテーマにし、生徒に分かりやすく伝えてもらい、生徒もよく理解していた。その際にアンケートを行い、結果から生徒がよく理解していることが分かる(図1、図2)。

図1

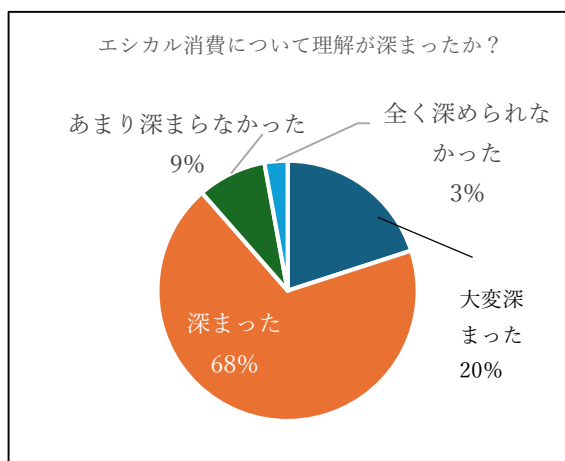


図2

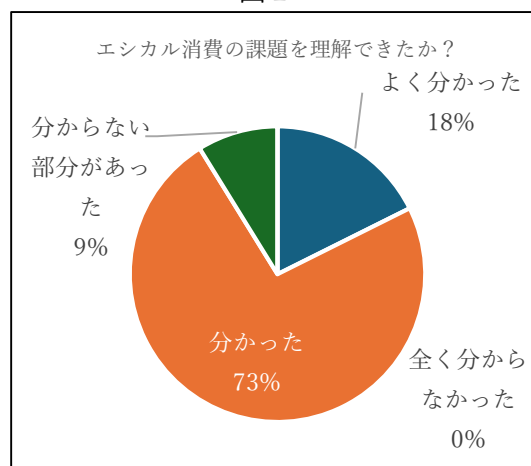


図3

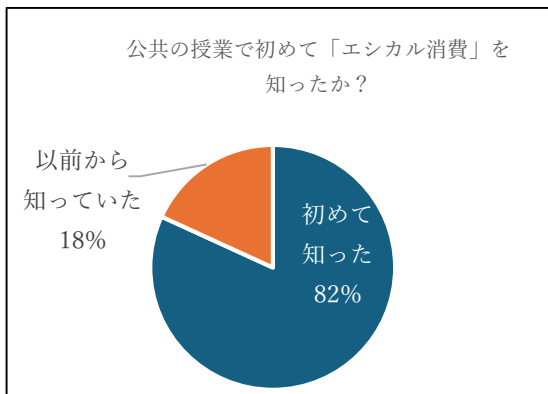


写真1



そもそも、エシカル消費という用語について知っていたという生徒は全体の2割を下回る人数しかおらず、公共の授業で初めて聞いたという生徒が多数を占めていた（図3）。そんな中でも、生徒たちが浅野先生の授業で印象に残ったことは、「1チョコ for 1スマイル」の活動であった。エシカル消費の事例として、自分たちが購入する商品でもできるということに心が動いたようであった（写真1）。

単元の中の3時限目では、浅野先生に授業をしてもらうことで、生徒にエシカル消費の概要とその課題を考えさせた。この授業を課題解決型の学習の皮切りとして4時限目以降のエシカル消費についての理解を深めていく段階へとつないでいった。

②課題解決1－問いを作る活動

4時限目以降では、ロイロノートを使いながら、課題解決型の学習を進行した。授業の始めに以下の資料を生徒に見せた（資料1）。

資料1

昨年12月23日、消費者庁が一言に発表した行政処分は、自然界の微生物によって分解される生分解性プラスチック（生分解性プラ）の業界に波紋を広げた。

処分を受けたのは、レジ袋や使い捨てのカップ、釣りの疑似餌、エアガン用のBB弾などを販売する10社。いずれも商品のパッケージやウェブサイトに「自然環境で使い捨てられても完全に分解される」という趣旨の表記をしていた。

写真・図版
消費者庁から行政処分を受けた製品=2022年12月23日
消費者庁は、各社が提出した資料が表記の根拠として不十分だったため、実際の性能よりも優れたように見せかけたと判断。景品表示法違反（優良誤認）にあたるとして、再発防止などを求めた。同庁の担当者は「環境への配慮をアピールする宣伝文句は誤認表示が起こりやすい。一言に行政処分に踏み切ることでグリーンウォッシュ（見せかけの環境配慮）への監視を強化する姿勢を示したかった」と話す。

行政処分を受けたある会社の社長は「分かりやすく生分解を伝えようとしたが、社内でのチェックがおろそかになった」と振り返った。指摘を受けた製品はいずれも堆肥（たいひ）中では分解されるが、自然環境では分解されにくい生分解性プラのポリ乳酸を使っていたという。

当初は分解される環境について正確に表記していたが売れ行きが悪かったため、「消費者に伝わっていないと思い、分かりやすい表記に変えた」。行政処分後は「生分解」ではなく、「環境にやさしい」という言葉を使っているという。
<https://www.asahi.com/articles/ASRCK4WKJRCBDIFI00C.html?msoclid=32cdf339642e67bb04e8e61165fc66f0>（2023年11月23日朝日新聞）より一部抜粋

資料1にはグリーンウォッシュ（見せかけの環境配慮）の事例を紹介している。この事例からエシカル消費という善意に付け込んで騙すような行為が世の中にあることを生徒に伝えた。ここから、本当に正しいエシカル消費とは何か、エシカル消費の課題を解決する方法はどのようなものがあるかを考え、単元の問いとしてエシカル消費でより公正な社会を実現するためにはどのような方法があるかを探る授業を2時間連続で実施した。

3時限目の展開では、問いを作る活動を行った。生徒が問いを作るために以下のようなワークシートをロイロノートで配付し、「なぜ」、「どのように」という疑問詞とエシカル消費あるいは食品ロスやフェアトレードなどのエシカル消費に関連する言葉を組み合わせることで問いを生み出す活動を行った（手順1、2）。その中で、一番の問いはどれかを生徒に選ばせ、3時限目を終えた。中でも、多くの問いを作った生徒の例を見ると、非常に身近な事柄に対して疑問を書き綴っていた（生徒のワークシート例1、2）。

手順1

手順2

<p>問いを作るワーク</p> <p>なぜ + エシカル消費 + ○○○ ⇒この組み合わせでできる問いは =何故エシカル消費は○○○なのか？</p> <p>どのように + エシカル消費 + ××× ⇒この組み合わせでできる問いは =どのようにエシカル消費を×××するか？</p> <p>※「なぜ」と「どのように」を使用する量は自由 「エシカル消費」の部分は… 食品ロス・フェアトレード・ファストファッション 地産地消・アニマルウェルフェア・脱プラ EV・授産製品 などの具体的な言葉にしてもよい</p>	<p>問いを作るワーク 1つめ</p> <p>なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 +</p>
---	---

生徒のワークシートの例1

生徒のワークシートの例2

<p>問いを作るワーク さらにできる人用</p> <p>なぜ + 脱プラ + 紙ストローまずいのか なぜ + 授産製品 + あまり見かけないのか なぜ + 環境に優しい + 人はポイ捨てするのか なぜ + フェアトレード + やりたがらない人があるのか なぜ + 地産地消 + 他より美味しく感じるのか どのように + フェアトレード + 小さい子も働いているよって伝えられるか。 どのように + 脱プラ + なにを工夫したら紙ストローにせずに済むか どのように + 環境に優しい + 日本大切にしようって伝えられるか どのように + 地産地消 + ホテルとかでも使ってくれるようになるか どのように + ファストファッション + リサイクルに回せるか</p>	<p>どれが最高の問い？ どのようにしたら紙ストローを美味しくすることができるのか</p> <p>それは何故？ マックとかスタバとかの紙ストローが美味しくなくて感じる人が多いし、美味しくないとわざわざプラスチックをもらう人もいるから美味しくすればプラスチックを完全になくせて、環境をよくすることができる。 紙ストローを美味しくすることでほかにも環境をよくするアイデアが浮かぶかもしれない。 プラスチックの箸とかを紙にできたり</p>
--	--

4時限目の授業の終わりにワークシートを提出させ、5分程度でクラスの生徒に共有し、良い問いや次の授業では仮説を考えてみる予告をした。生徒の問いはうまくできないことが多数あるが、自由な発想によって、考えてもいないような問いを作る生徒も見受けられた。次回への橋渡しとなるため、生徒のワークの内容に否定することはせず、自由な発想を受け入れ、仮説を作成するワークへ取り組むように伝えた。


③課題解決2 一仮説を立てる

5時限目は、前時で作成した問いに対して、調べて、自分なりの仮説を立てていく授業を実践した。調べる段階では、以下の説明をロイロノートで行った上で、生徒たちに活動をさせた（手順3、4）。

調べる段階では、インターネットの情報などから調べた内容を図やグラフなどから引用し、自分が分かったことを入力する活動を行った。この活動では問いを作る段階で曖昧だった知識を補完し、深い追求ができるように仮説を立てる準備を行った。仮説を立てる段階では、作成した問いと調べた内容とを照らし合わせ、自分なりの仮説を立てる活動を行った（手順5、6）。仮説まで作成した生徒はロイロノートの提出箱に提出させた。

手順3

手順4

<p>②調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに関連することを調べる。さらに、分かることを簡単に書く。 ・エシカル消費について既に行われている活動例を見ることや、会社での取り組みもよい事例になる。 ・エシカル消費の観点を深めて調べると良い。「エシカル消費 食べ物」ではなく、「食品ロス 卵」など具体化するとよい。 ・時間は20分。 	<p>調べた内容の例</p>  <p>わかったこと 食品に購入傾向があることが分かる。全体的に日用品に消費傾向があることが分かる。</p> <p>出典—https://dentsu-ho.com/articles/7817</p>
--	---

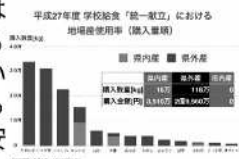
手順5

手順6

<p>③仮説を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた問いと調べた内容から今の時点で自分の答えを考える。 ・しっかりと理由を述べるとよい（なんとなく・・・はNG） ・根拠を客観的に述べるべき 例:「XXというグラフで ○%の人が答えている」など 	<p>仮説を作るワーク 最高の問い</p> <p>仮説（調べた内容を根拠に書く）</p>
--	--

生徒のワークシートの例3

生徒のワークシートの例4

<p>調べた内容①</p> <p>学校給食の活用をする。地産地消をする為に、農家さんは学校側に給食を提供する。このことから、農家さんは学校側が買い取ってくれるから食品ロスにもならないのと、学校側もだれが作っているか分かるから安心安全に食べることができる。</p>  <p>分かること 食品ロスにつながらなくて、環境にもいい。</p>	<p>採用する問い どのように地産地消を増やしていくのか</p> <p>採用する仮説 今回調べた【学校給食を活用する】ことと【地元のスーパーと連携する】を元に地産地消を考えると地元を絡めて農産物を消費者に提供することで、食品ロスなどを解決していけば上手くいくと思いました。</p>
---	--

生徒のワークシートの例5

生徒のワークシートの例6

<p>調べた内容① ファストファッションの需要</p> <p>分かること 若者の利用数が多く、今後も利用数は増えていく傾向にある。 多くの人からファストファッションは必要とされている。</p>	<p>採用する問い</p> <p>どのようにしたら批判されずにファストファッションを利用できるようになるか</p> <p>採用する仮説</p> <p>ネットで頼める量を決め制限を作る。 アプリとかで フェアトレードとかもいいと思うけど安く手に入られるのが需要につながってるから、値段はあまり変えたくない。</p>
--	--

生徒のワークシートの例3から6は完成したワークシートであるが、調べた内容から問いに対する仮説を作成している（生徒のワークシートの例3、4、5、6）。ワークシートの例の3と4を作成した生徒は、食品ロスという問題に対して学校給食やスーパーでの地産地消を促進する活動で解決することを提案していることから多角的な視点で考えることができたと考えられる。また、ワークシートの例5と6を作成した生徒は、ファストファッションの「需要」と「廃棄」という多面的な見方で解決策を探ったと見られる。ほとんどの生徒が調べる過程でエシカル消費のより良い方法を考える難しさに気づく。多面的・多角的に物事を俯瞰しなければ、よりよい解決策を見つけることは容易ではない。本授業で大切にしたいことは、エシカル消費のよりよい方法を探ることであるが、追求の過程でエシカルの課題について理解することや一つの事象を多面的・多角的に見る力を身に付けること、そして自分なりの考えを導き出す力を養うことである。ここで授業を終えるのではなく、生徒が改めてエシカル消費に対してどのように感じたのかをまとめる時間が必要である。

④課題解決3ーまとめ

最後に、生徒がこの単元を通して学んだ内容を自分なりに考えをまとめるワークシートを課題として提出させた。以下は生徒が作成した単元のまとめである。（生徒のワークシートの例7、8）

生徒のワークシートの例7

<p>単元の問いに対する学習後の考え</p> <p>最初はエシカル消費は食品ロスなど食品のことだけかと思っていたけど、障害者や家畜などの動物も含まれることが分かった。エシカル消費はできるだけやったほうがいいけど、やりすぎると自分たちが生活しづらくなることもあることが分かったから、程よくエシカル消費ができるといいのかなと思った。いろいろ調べたりしてわかったことは授産製品を広めるなど今すぐにでもできることがなかなか広がらなかったり、家畜の放牧などがまだ完全に実現できてないことから完全に実現するにはまだ難しいことが分かった。この前、友達とコンビニに行ったときにチョコを買おうと思ってパッケージの裏を見たら1チョコfor1スマイルのチョコがあったから身近なところでエシカル消費があるけど、それがエシカル消費だと教えてもらうまではそういう商品を買おうと思わないから、もう少しエシカル消費について広めていくべきだと思った。</p>

生徒のワークシートの例 8

単元の問いに対する学習後の考え

エシカル消費は環境に良かったりするなどのいいことばかりと思っていたけど、エシカル消費のなぜ、どのようになどを調べたら、いいことばかりではなかった。具体的には、フェアトレードがあるがチョコレートを作っている人たちに対して十分なお金が入らなかったりするから、公正な社会を実現できるかについては、実現できないことがあると思いました。また、紙ストローが環境にやさしいとして多く使われているが、実際にはプラスチックのストローのほうが燃やすときに排出される二酸化炭素の量が紙ストローより少ないことが分かっていたので、エシカル消費にも疑問が生まれるような問題もたくさんあるということを知ったので、フェアトレードではチョコレートなどの価格を上げたりすれば、働く人も幸せになれたりすれば、エシカル消費を通じて公正な社会を実現できるのかなと思いました。

ワークシートの例 7 の生徒は、障害者が生産する授産製品や動物の福祉などの幅広い観点でエシカル消費が世の中に広まっていることを新しく学んだことをまとめている。また、講師の浅野先生から学んだ「1 チョコ for 1 スマイル」が身近にあることを感じつつ、それをもっと広める活動の重要性をまとめとしている。本校の生徒のほとんどがエシカル消費を知らなかったと答えるように、まだまだ認知度が低いことから啓発活動を進め、多くの人が認知することがまずは重要であると考えている。

ワークシートの例 8 の生徒はエシカル消費が完全なものではないことを理解しながら、フェアトレードの本質的な部分に対して批判的な目線で見えており、賢い消費者に近づいていることが見受けられる。紙ストローについての理解も同様で、調べたデータからプラスチックストローとの違いを考え、本当にエシカルなものとは何かを考えようとしている。

4 成果

本実践を通じて、消費者教育の研究として以下の 2 点をまとめとしたい。1 点目は、外部講師による授業が協働的な学びとして非常に有効な手立てとなることだ。今回、外部講師による授業を依頼したことで専門性の高い内容についてはもちろん、学ぶ内容が社会でどのように運用されているのか実情を語ってもらうことで生徒の思考を深めることができた。現に、教員では伝えられないことや気づきを語ってもらうことで、生徒は新たな刺激を受け、主体的になる可能性が大いにある。消費者教育の内容については、特に有効な手立てだと感じた。

2 点目は、高校生にエシカル消費という概念はまだ浸透していない部分があるということであった。本校生徒が知らないだけでなく、未だにエシカル消費という言葉を知らない人は多い。本当の意味でのエシカル消費を発展させていく上で、授業など様々な場面で啓発を進めながら、深く考える授業を構成していく努力が必要になるだろう。